うらやす

宇部市立上宇部小学校
学校だより12月号
令和5年11月24日発行

「見えない壁」をつくらない～「カマス理論」について

校長　原　浩一郎

「カマス理論」をご存知でしょうか？　私は知らなかったのですが、先日参加した研修会の講演で紹介されて知りました。

カマスは、人間も襲うことのあるような気性の荒い魚です。水槽にカマスを入れ、その中にえさとなる小魚を放り込むと、カマスは一目散に襲いかかります。実験として、この水槽に「見えない壁」である透明の間仕切りを設けて水槽を二つに分け、一方にカマス、もう一方に小魚を入れます。すると、カマスは、小魚を食べようとして何度も間仕切りに体当たりを繰り返します。しかし、食べることができないと分かると、間仕切りを外した状態で小魚が目の前に来ても何の反応もしなくなるそうです。

これは、アメリカの心理学者によると、「学習性無力感」という状態だそうです。

私達、人間の世界でも、同じようなことがあると思います。「そんなこと絶対無理だ」「やめておいた方がいい」などと考えて、無意識のうちにあきらめていることがあります。

子どもたちの中にも、「できるわけがない」などのネガティブな言葉を幼い頃からかけられてきて、チャレンジする意欲が低くなっている子どもがいるかもしれません。その場合、子どもの心の中には、「見えない壁」ができているのではないかと思います。

実は、この実験には続きがあります。

間仕切りをはずした状態にして、新たに別のカマスを水槽に入れます。当然、新しいカマスは、小魚に襲いかかります。すると、それを見た最初のカマスは、まるで目が覚めたように猛然と小魚に襲いかかるそうです。

人間の世界における「見えない壁」は、思い込みや偏見でしょうか。この「見えない壁」は、可能性に蓋をしてしまいかねません。

「カマス理論」のお話から、私達は、まずもって、子どもに対しても、周りの人に対しても「見えない壁」をつくらないことが大切だと思いました。また、自分自身が「新しいカマス」になれるといいなと思います。